国立大学法人 名古屋大学医学部 医系研究棟3号館

所　在　地：愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65番地
建 築 面 積：1,536㎡
延 床 面 積：13,087㎡
構造・規模：鉄筋鉄骨コンクリート造　地上10階、地下1階
建　　築：建築/㈱梓設計
　　設備/㈱森村設計
施　　工：建築/㈱鴻池組
　　電気/川北電気工業㈱
　　機械/ダイダン㈱
完　　成：平成26年6月

S292

名古屋大学医学部では、鶴舞キャンパスにおける医学研究の新拠点として医系研究棟3号館を新築。
コンセプトの一つとして省エネルギー・環境負荷低減を掲げ、照明には全館LED器具を採用しています。

最先端の医学研究を推進する体制を整備する一環として新築

医学系研究科の再編を進めてきた医学部で、教育・研究基盤を支える施設整備の一環として、医系研究棟3号館が新築されました。地下1階から5階までに、アイソトープ総合センター、解剖実習室、組織・病理実習室などが配置されています。また6階から10階は使用目的の変更に応じて柔軟に改装できるプロジェクトスペースが確保され、試験物（創薬）開発実験室、生物統計学室などが設置されています。これにより各機能が一段と強化され、最先端の医学研究を推し進めていく体制が整いました。

全館LED化で省エネルギーと教育の場にふさわしい照明環境を創出

医系研究棟3号館は、設計コンセプトの一つとして省エネルギー・環境負荷低減を掲げ計画されました。そのため外壁面は高断熱・高気密化を図り、南北の窓面には複層ガラスを採用。また自然換気窓の設置により各階の廊下、ホールの換気、通風を促進します。そして照明には省エネ、省メンテナンスの特性から全館LED器具を採用しています。

照明器具の選定においては、特殊な部屋（RI*関係、解剖関係）を除き、プロジェクトスペース、寄付講座の部屋は、研究内容により部屋の用途変更の可能性があることと、また、LEDベースライト直付薄形タイプ（Hf32×2高出力相当、Ra83）の本体が埋込形のように圧迫感のない直付薄形タイプであることをかんがみ、埋込器具による天井開口作業の軽減を考慮して直付タイプを採用。同時に器具コストの削減を図っています。このLEDベースライトは、Hf蛍光灯器具に比べて消費電力が約40％削減されるとともに、長寿命によって（40,000時間）メンテナンスコストも大幅な削減を可能にしています。さらに初期照度補正機能により初期の余分な明るさを抑えると同時に、あかりセンサーを採用し照明回路を分けることで、日中など外光を検知して光量をコントロールし明るすぎない適正な明るさに自動調光し、いっそうの省エネを実現します。また、3階病理検査室では、顕微鏡を使用するため、区分けごとにライトコントロールができるように設定し、研究効果を高めています。

（*アイソトープ）

5階 臨床研究中核病院支援研究室のLED照明

7階 プロジェクトスペースの生物統計学のLED照明

2系統に回路分けしてあかりセンサーを設置

一体形LEDベースライト薄形タイプ

エレベーターホールはLED一体形ダウンライトを採用

トイレのLED照明

研究者が集うライブラリーのLED照明

フロアごとに壁のアクセントカラーが異なるエレベーターホールのLED照明

7階 トキシコゲノミクス研究室のLED照明

あかりセンサーで光量をコントロールする多目的室の照明

人感センサーで省エネを図る廊下のLED照明

主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	備考
館内	一体形LEDベースライト薄形タイプ	LEDT-67142N-LDJ	827	LED 平均消費電力:53W
		LEDT-33122N-LDJ	124	LED 平均消費電力:28W
	直管形LEDベースライト	LET-41107K-LDJ(笠付)	150	LED 平均消費電力:31W
		LET-21007-LDJ(トラフ)	46	LED 平均消費弾力:17W
		LET-41007-LDJ(トラフ)	39	LED 平均消費電力:31W
	一体形LEDダウンライト500シリーズ	LEDD-05027N-LD9	125	LED 消費電力:8.5W
	一体形LEDダウンライト1500シリーズ	LEDD-15027N-LD9	184	LED 消費電力:15.6W
	LEDユニットフラット形ダウンライト(センサー付)	LEDD-05000Y	100	LED 消費電力:8W